

278
37



養德文庫一覽

第十五年報

自大正十五年四月
至昭和二年三月

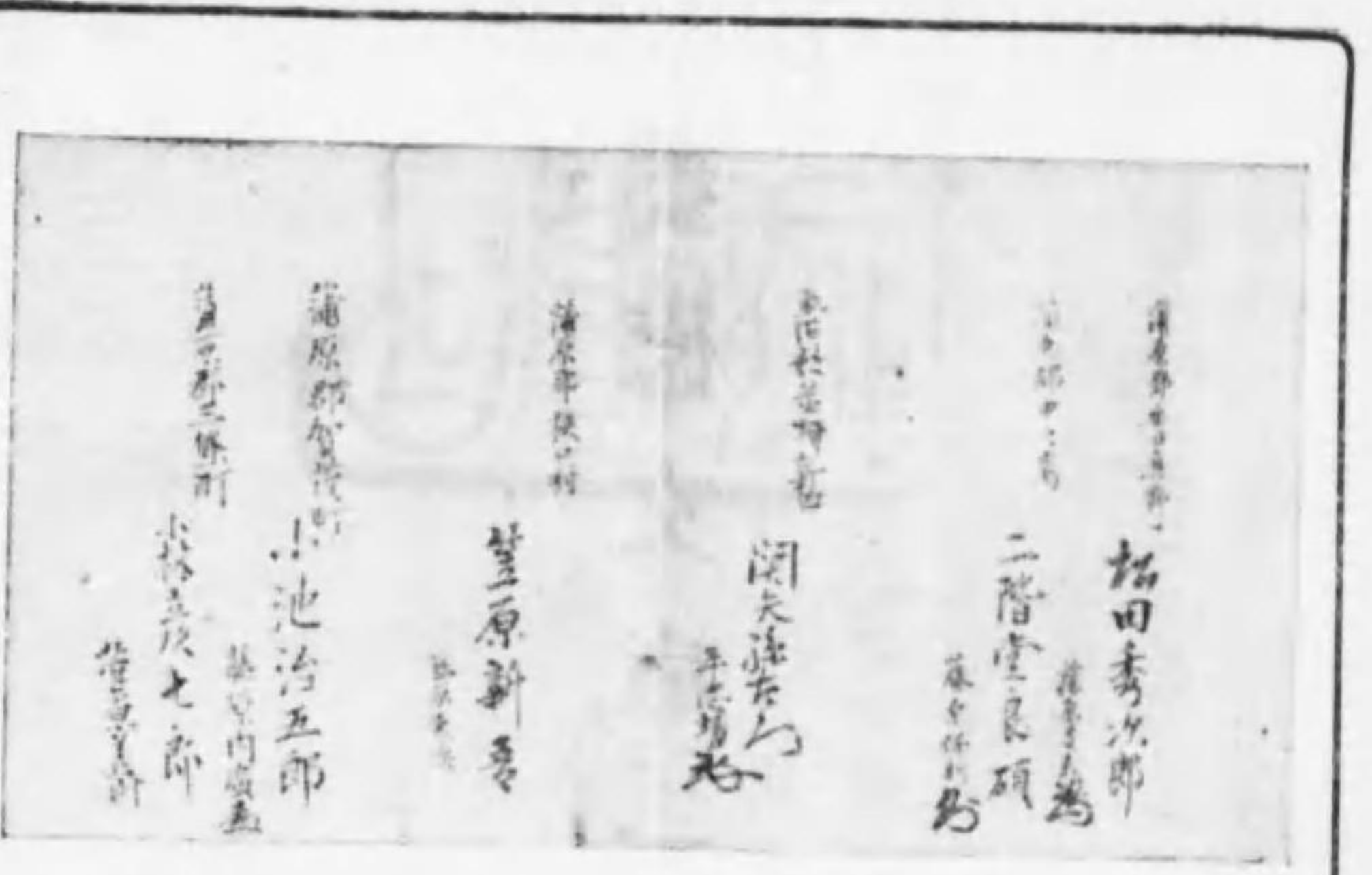


庫寄贈本



始





居之隊連判状

明治戊辰の役起るや、松田秀次郎主唱となり、二階堂保則、關矢孫左衛門、等原新吾、小池内廣等同志百餘名を糾合して、方義隊を組織し、遙に王師に應じ、總督府に願書及同志の姓名録を奉り、北越戡定の方略を陳す、依て大隊旗一旒を授與せらる。後總督官より居之隊の名を賜はれり。王師越後に入るや、之れが嚮導となり各地に轉戦し、其功勳からず。北越の地平ぐや、命により上京して親衛隊となり、隊兵の操練を駒場野に於て天覽に供せり次で解隊歸耕を請ひ、明治二年九月許さる。

上掲の寫眞は連判状の一部を寫せるものなるが中には血判せるものもありて、同志の熱烈なる殉國的精神は、見る人をして感激せしむ。

一 沿革

本文庫は天理教青年會南越支會の事業に屬し圖書を蒐集保存して公衆の閱覽に供し以て智徳の修養に裨補することを目的とす。明治四十四年十月同會の總會に於て會長大橋永三郎の寄贈せる七百餘冊の圖書を基本として圖書館を經營するの議を決し翌四十五年四月十一日開覽を開始したるが次で五月十八日圖書館令により私立圖書館設置を新潟縣知事に開申せり。大正二年五月より巡回文庫を實施す。四年七月北海道札幌郡豊平町字石山に分館を設く。五年三月以降新潟縣立圖書館より巡回文庫の廻付を受く。七年三月規則を改正す。十年八月二十四日創立十週年記念式を舉行し赤司文部省普通學務局長其他百三十餘名の参列者ありたり。

二、特別會計
 圖書基金 收入總額 五七七、一六〇
 基金支出總額 五七七、一六〇

十五年度ヨリ繰越基金	四八九、三〇〇	基金昭和二年度へ繰越	四八九、三〇〇
前年度ヨリ繰越別途積立金	一〇、〇〇〇	別途積立金次年度へ繰越	一〇、〇〇〇
寄附金	二〇、〇〇〇	事業費圖書購入	二八、〇四〇
前年度ヨリ剩餘金繰越	二三、五〇〇	五十年祭及基金奉告祭費	三二、〇〇〇
利子	三四、三六〇	剩餘金次年度へ繰越	一七、八二〇

池田治五郎
 著
 大正五年九月許さる。

せり次で解除隠耕を請ひ、明治二年九月許さる。
 上掲の寫眞は連判狀の一部を寫せるものなるが中には血
 判せるものもありて、同志の熱烈なる殉國的精神は、見
 る人をして感激せしむ。

一 沿革

本文庫は天理教青年會南越支會の事業に屬し圖書を蒐集保存して公衆の閱覽に供し以て智徳の修養に裨補することを目的とす。明治四十四年十月同會の總會に於て會長大橋永三郎の寄贈せる七百餘冊の圖書を基本として圖書館を經營するの議を決し翌四十五年四月十一日閱覽を開始したるが次で五月十八日圖書館令により私立圖書館設置を新潟縣知事に開申せり。大正二年五月より巡回文庫を實施す。四年七月北海道札幌郡豊平町字石山に分館を設く。五年三月以降新潟縣立圖書館より巡回文庫の廻付を受く。七年三月規則を改正す。十年八月二十四日創立十週年記念式を舉行し赤司文部省普通學務局長其他百三十餘名の參列者ありたり。

二 設備

未だ専用の建物を有せざるを以て當分の内天理教南越支會養徳寮(約卅二坪)を以て之に充つ。閱覽室は疊敷となし新着書架及陳列棚を置き郷土史料名士の筆蹟參考品等を陳列し新着書は特設の揭示場に揭示し且つ『養徳文庫の榮』に掲載して希望者に頒つ。

三 施設

當地方の事情と設備の不完全とにより多數の館内閱覽者を收容する能はざるを以て當分の内館外携出閱覽を獎勵し居れり、目下館内外閱覽の外施設の重なるもの次の如し。

- イ、養徳巡回文庫 甲乙の二種は定期内種は不定期なり。小學校青年會工場等に廻付す。
- ロ、讀書會 大正五年以來繼續毎月一回開催し時宜によりては研學旅行をなすことあり。
- ハ、閱覽人懇話會 毎年一回二月十一日に開催し講談等の餘興あり。
- ニ、講演會 時宜により開催す。
- ホ、講習會 時宜により開催す。
- ヘ、郷土史料蒐集及編纂 大正五年來繼續史料の蒐集中(加茂郷土史料叢書第一及加茂先賢遺芳第一は既刊)
- ト、本文庫に有せざる専門の圖書は希望者の申込を受け縣立圖書館より借受け研學の便を圖り居れり。

四 本年度内に於ける重要事項

- イ、五月十日 宮内省より大正德行録一部下賜せらる。
- ロ、四月四日 文部省維新史料編纂局より依頼に依り史料三點を貸付く。
- ハ、十一月十三日 小池内廣先生の墓前に於て五十年祭及靜室記念圖書基金報告祭を舉行せり、基金は別記の如くなるが、大橋主事は祭典費へ金貳拾圓を、文學博士大矢透氏は先生の肖像を揮毫して寄贈せられたり

五 蔵書

本年度末現在蔵書和漢書四千三百七十七冊洋書十六冊合計四千三百九十三冊なり。此外新聞雜誌二十餘種を備付く。

六 閱覽成績

(館外及巡回文庫は延數なり)

種別	兒童	生徒	教員	官公吏	實業	其他	計	本文庫	分合計	總計	日開館數
館内	一、二六	六八	一五	二七	四、六〇	二、六三	九、四六				
館外	一、二七	一、七六	四、〇八	三、四	二七、九元	六、五八	四、二八	五五、九六〇		五八、七三	三〇〇
養徳巡回文庫	六六	三三	三七	二四	二、四三	三三	四、七三				
縣立巡回文庫	四	五七			一、二四〇	九八	二、七五				

種別	書類	神教	哲學倫理	文學	地誌	法制	社會	醫學	工學	産業	美術	計
館内	四、二六九	一、四八七	一、三三五	三、五〇〇	一、〇九	二、五二	九八	一九〇	二、〇七	六三三	一八、六八	
館外	五、七五六	三、四七五	五、〇〇〇	九、七六	七、六九	七、六九	一、八八九	七〇八	三、六四	八三	四七、〇四	
養徳巡回文庫	一、八九	三〇三	九六五	二、二三	一、三〇五	一、三〇五	二七〇	四〇	一、〇六	六六	九、四三	
縣立巡回文庫	六八	六八	四五六	一、〇七	三二	三四六	六	七五	七八	二七	三、七二	

七 經費

一、經常費收入總額 三〇〇、〇〇〇
 内譯

- 經營者支出 七五、〇〇〇
 - 天現教南越支會補助 一五〇、〇〇〇
 - 協賛會費 七五、〇〇〇
- 二、經常費支出總額 三〇〇、〇〇〇
 内譯
- 圖書費 一五〇、〇〇〇
 - 管理費 一五〇、〇〇〇

三、特別會計靜室記念圖書基金收入總額 五七七、一六〇
 内譯

靜室記念圖書基金支出總額 五七七、一六〇

本文庫は天理教育青年會商榷支會の事業に關し圖書を蒐集保存して公衆の閱覽に供し以て習俗の修養に裨補することを目的とす。明治四十四年十月同會の總會に於て會長大橋永三郎の寄贈せる七百餘冊の圖書を基本として圖書館を經營するの議を決し翌四十五年四月十一日開館を開始したるが次で五月十八日圖書館令により私立圖書館設置を新潟縣知事に開申せり。大正二年五月より巡回文庫を實施す。四年七月北海道札幌郡豊平町字石山に分館を設く。五年三月以降新潟縣立圖書館より巡回文庫の廻付を受く。七年三月規則を改正す。十年八月二十四日創立十週年記念式を舉行し赤司文部省普通學務局長其他百三十餘名の參列者ありたり。

二 設 備

未だ専用の建物を有せざるを以て當分の内天理教南越支教會養德寮(約卅二坪)を以て之に充つ。閱覽室は學數となし新著書架及陳列棚を置き郷土史料名士の筆蹟參考品等を陳列し新著書は特設の揭示場に揭示し且つ『養德文庫の榮』に掲載して希望者に頒つ。

三 施 設

當地方の事情と設備の不完全とにより多數の館内閱覽者を收容する能はざるを以て當分の内館外携出閱覽を獎勵し居れり、目下館内外閱覽の外施設の重なるもの次の如し。

- イ、養德巡回文庫 甲乙の二種は定期丙種は不定期なり。小學校青年會工場等に廻付す。
- ロ、讀 書 會 大正五年以來繼續毎月一回開催し時宜によりては研學旅行をなすことあり。
- ハ、閱覽人懇話會 毎年一回二月十一日に開催し講談等の餘興あり。
- ニ、講 演 會 時宜により開催す。
- ホ、講 習 會 時宜により開催す。
- ヘ、郷土史料蒐集及編纂 大正五年來繼續史料の蒐集中(加茂郷土史料叢書第一及加茂先賢遺芳第一は既刊)
- ト、本文庫に有せざる専門の圖書は希望者の申込を受け縣立圖書館より借受け研學の便を圖り居れり。

四 本年度内に於ける重要事項

- イ、五月十日 宮内省より大正德行録一部下賜せらる。
- ロ、四月四日 文部省維新史料編纂局より依頼に依り史料三點を貸付く。
- ハ、十一月十三日 小池内廣先生の墓前に於て五十年祭及靜室記念圖書基金報告祭を舉行せり、基金は別記の如くなるが、大橋主事は祭典費へ金貳拾圓を、文學博士大矢透氏は先生の肖像を揮毫して寄贈せられたり

五 藏 書

本年度末現在藏書和漢書四千三百七十七冊洋書十六冊合計四千三百九十三冊なり。此外新聞雜誌二十餘種を備付く。

六 閱 覽 成 績

(館外及巡回文庫は延數なり)

種 別	兒 童	生 徒	教 員	官 公 吏	實 業	其 他	計	分 本 文 庫	日 間 館
館 内	一、二六六	六六八	一三三	二二七	四、四四〇	二、六六二	九、四九六		
館 外	一、一七七	一、七六六	四、〇一八	五、四四	二七、九二九	六、五五八	四三、二二三	五五、九六〇	
養德巡回文庫	六六九	三〇八	三七	二四	二、四三三	三、八三	四、一七三		五八、七三三
縣立巡回文庫	四	五七			一、二四〇	九八二	二、七三三		三〇〇
閱 覽 冊 數									

種 別	書 類	神 教	哲 學	文 學	地 理	史 記	法 制	社 會	數 學	工 學	交 通	美 術	計
館 内	四、二九九	一、四八七	一、三三五	三、五五〇	一、六〇九	二、五二一	七九八	一九〇	二、〇七二	六三三	一八、六六八		二八、六六八
館 外	五、七五五	三、四七五	五、六三〇	九、七二六	七、六九九	七、六三三	一、八八九	七〇八	三、六九四	八三	四、七〇三		四七、〇四三
養德巡回文庫	一、八九七	三〇三	九六五	二、一三三	一、三〇九	一、七五五	二七〇	四〇	一、〇四四	六六	九、四四三		一八、四四三
縣立巡回文庫	九八一	九八	四九八	一、〇三七	三二	二四六	六〇	七五	七六	三七	三、七七一		三、七七一

七 經 費

一、經常費收入總額		經常費支出總額	
內 譯	三〇〇、〇〇〇	內 譯	三〇〇、〇〇〇
經 營 者 支 出	七五、〇〇〇	圖 書 費	一五〇、〇〇〇
天現教南越支教會補助	一五〇、〇〇〇	管 理 費	一五〇、〇〇〇
協 贊 會 費	七五、〇〇〇	靜室記念圖書	五七七、一六〇
特別會計靜室記念	五七七、一六〇	基金支出總額	五七七、一六〇
圖書基金收入總額	五七七、一六〇	內 譯	四八九、三〇〇
內 譯	四八九、三〇〇	基金昭和二年度へ繰越	四八九、三〇〇
十五年度ヨリ繰越基金	一〇、〇〇〇	別途積立金次年度へ繰越	一〇、〇〇〇
前年度ヨリ繰越別途積立金	二〇、〇〇〇	事業費圖書購入	二八、〇四〇
寄 附 金	二〇、〇〇〇	五十年祭及基金奉告祭費	三二、〇〇〇
前年度ヨリ剩餘金繰越	二二、五〇〇	剩餘金次年度へ繰越	一七、八二〇
利 子	三四、三六〇		

815
17

八職 員

主 事	大 橋 永 三 郎
書記兼司書	大 橋 榮 裕
同石山分館主任	塚 田 寅 藏

九 養德文庫協賛會

本年度中協賛會員として圖書費を寄附せられたる各位は左の如し茲に芳名を掲げて感謝の意を表す。

淺 井 善 吉殿	大 橋 永 三 郎殿	大 橋 山 藏殿
桑 原 九 八殿	近 藤 政 治殿	長 澤 虎 藏殿
山 田 象 次殿		

十 圖書及金品寄贈者

本年度中圖書雜誌史料及金品を寄贈せられし各位は次の如し茲に其芳名を掲げて感謝の意を表す。

愛國婦人發行所	一條 秀 美殿	醫學博士入澤達吉殿	大橋永三郎殿
大橋 榮 裕殿	文學博士 大矢 透殿	小 野 靖 彦殿	加藤 咄 堂殿
加茂朝學校	加茂織物同業組合	加 茂 銀 行	加茂 圖書館
久保 宗 吉殿	宮 内 省	桑 原 善 吉殿	慶 應 義 塾
皇國發行所	小林 小市郎殿	佐 賀 圖書館	心學 脩 正 舍
第二高等學校	高井亮太郎殿	高 橋 義 彦殿	恒 松 勤 一殿
高野 正 治殿	帝國在郷軍人會本部	帝 國 圖書館	鐵 道 省
天理教教應	天理教道友社	天理教青年會	天理教婦人會
天理教うちわけ社	天理教湖東社	天理教正道社	天理教正明社
天理教南越支教會	東京府社會事業協會	栃木縣學務部	内 閣 統 計 局
德島縣立慶光圖書館	長岡市立互尊文庫	中 野 財 團	名古屋市立圖書館
新潟縣知事官房	新潟縣 内務部	新潟築港博覽會	新潟縣水産試驗場
新潟縣農會	新潟縣立圖書館	新 潟 縣 人 會	新潟縣町村長會
二階堂鶏助殿	日本勸業證券株式會社	西越郷土誌編纂會	日 比 谷 圖書館
前橋市立圖書館	横 哲 殿	間 宮 不 二 雄殿	南 蒲 原 郡 役 所
南滿洲鐵道株式會社	官幣大社 明治神宮	目 黒 榮 松殿	文 部 省
山口縣立圖書館	山内於菟太郎殿	山 吉 賴 奇殿	若松市立會津圖書館
早稻 田 大學	萩 原 石 津殿		

278
37

昭和二年八月二十五日印刷
昭和二年九月一日發行

發行所 新潟縣南蒲原郡加茂町大字上條天香地 養 德 文 庫

昭和二年八月二十五日印刷
昭和二年九月一日發行

新瀉縣南蒲原郡加茂町大字上條六八番地
發行所 養徳文庫
新瀉市東中通二番町
印刷所 青木印刷所
新瀉市東中通二番町
印刷者 青木信次郎

終